



## 「感動した」 会場の声

「初めて被災者の声を聞いた」「ナマの声に胸が熱くなった」「大変なご苦労をされていることがよくわかった」「阪神と重ね合わせ、復興の長い道のりを思った」「何か自分ができるお手伝いをしたい」「チームの皆さん、KSCのためによくや

てくれた」など、報告会場では様々な感想が聞かれました。（＝写真⑤花城アリアさんと「ふるさと」を歌う3次チーム）

## 東北物産は完売

女川町観光協会とタイアップ、報告会入口で初めて東北物産を販売しました（写真）。売れ行きは大変好調で、笹かまぼこ（1000円）と牛タンせんべい（650円）は予約・即売をあわせて330個（28万6250円）、即売の女川カレー・かりんとう・さんま昆布巻きは計60個（3万8000円）が捌け、〈わ〉の収益は4万2565円でした。予約販売を中心にして支援チーム・各サークル・振興協会・カレッジ事務局・〈わ〉本部などに協力をお願いしたところ予想以上の売れ行きになりました。振興協会も宮城の作業所と連携して伊達の燻製やアイスクリームを販売しました。



## 5施設にXマスプレゼント

東北物産販売の収益約4万円で3次チームが訪問した名取が丘保育所・名取が丘児童センター・増田保育所・ゆりが丘児童センター・仙台六郷児童館の子供たち計420人にXマスプレゼントとしてお絵かきセット（画用紙と色鉛筆・マーカー）を贈りました。（東北支援プロジェクト）

●記録ビデオ 上映された【震災ボランティア奮闘第3部】は約17分のビデオ。水嶋和信（生12）・古後健一が撮影した画像を南形徹（生14）が構成・編集。ナレーションを筒井ちなみ（音17）が担当したものです。

## 【チーム6人の体験発表要旨】

- ①「銭太鼓体験教室で交流」（阿部和子）＝仮設での活動は初めてだったが、いい経験になった。石巻の日和山公園で、行商のおばさんから「神戸からよく来てくれたね」とトマトをたくさんもらった。野菜不足だったのでありがたかった。妻がまだ行方不明という焼きそば販売のおじさんからも、辛い話を聞いた。偶然の出会いだが、被災者の心の一端に触れることができた。
- ②「民謡を一緒にうたい、東北の心に触れた」波多野武郎＝公演の前に仮設で呼び込みをしたら「よく来てくれた」と声がかかり嬉しかった。ホタテの養殖が全滅してしまい「ハンデを持つ息子はどうやって生きていくんだ」と嘆く母親の話が胸を離れない。
- ③「瞳輝く明るい笑顔の子供たちに」内田たみ子＝映像を使って、現地でやった昔遊びの数々を説明。「昔遊びは子供たちの夢と生きる力をはぐくむ」と。
- ④「子供たちはマジックが大好き」三浦良子＝ある保育所で司会が、「見たいものなーに？」と聞いたら、子供たちはいっせいに「マジック！」と。嬉しかったですね。期間中、10回ぐらい出演したが、「心のケア」に少しでも役立てば、と思っている。
- ⑤「子供たちと楽しく歌ってきました」山田保子＝子供たちが、心から歌える日はいつくるのだろうか。ガレキだけが残っている現地を見て、復興はまだまだ遠いと感じた。神戸のじいじ、ばあばも応援していると声をかけてきた。
- ⑥「東北と神戸の橋渡し～子供たちの交流のために」古後健一（健18）＝神戸から持参したメッセージ、訪問先の小学校などから届いたお礼のメッセージを画像で紹介しながら、1次～3次の交流を振り返る内容だったが、時間の関係で急ぎょ割愛となった。

## ゲスト2人の歓迎会

宮城県からゲスト講師に招いた武石久美子さん、氏家錦さんは11月19日午後に来神。阪神大震災記念碑などを訪れ、夕方、3次チームや有志が開いた歓迎会に出席。同夜はしあわせの村に宿泊しました。20日は報告会后に中央区の防災未来センターを見学、帰途につきました。「カレッジの皆さんの温かいもてなしに感謝します」とのことでした。